

「自分の中で『核』となる考え方」

大阪府警察生活安全課 藏谷 俊治

現在の職に就いた経緯

関西学院を卒業して、「アメフトをまだ続けたい」「アメフトと仕事を両立出来る会社で仕事したい」「やるからには、アメフトも仕事も一番を目指したい」と思い、松下電工株式会社（現「パナソニック株式会社」）に入社しました。

そこでは、経理部に配属となり、職場環境も良く、職場の方もアメフトに理解があるという最高の環境で3年間、仕事をさせていただきました。

その間、チームでは副将、主将と幹部の経験も積み、充実した社会人生活を送っていました。

しかし、「将来の自分」を考えた時に、警察官である父の背中を見て育った私は

や、先のことを考えて不安になることもたくさんありますが、この「人間は今を生きる生き物」という言葉を思い出して、この一瞬を全力で取り組むことが大事だと改めて感じています。

「人に伝えること」

アメフトは、チームスポーツで、綿密に立てられた作戦を確実に実行したチームが勝利するスポーツです。

しかし、その膨大な緻密な作戦を理解し、試合中に起こる予想外の相手の作戦、動きを一瞬で判断しなければなりません。

私のポジションはオフラインスラインでしたが、「オフラインスライン全員の一步目の位置」等、当然分かっている必要はありませんでした。

「自分の考えを伝え、相手の考えを理解する」そのために、ビデオミーティングでとことん話を詰めました。

当時、鳥内監督はよく「お前らちゃんとしゃべれ」「しゃべらんやつはいらんねん」と言われました。

この「しゃべれ」ということが「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」であり、社会人にとって必要不可欠な能力であると思います。

現在の職で活かされていること

今まで、交番勤務、パトカー勤務、生活安全課での勤務等を経験してきました。

今は、生活安全課防犯係で主に「人身安

「困っている人の役に立てる仕事をしてみたい」といつしか思うようになり、父と同じ「警察官」という職を目指し、採用試験を受けました。

警察官への転職は賛否両論あり自分自身も悩みに悩みましたが、多くの方の力添えや支えがあり、何とか採用試験に合格し、無事に警察官になることが出来ました。

ファイターズで学んだこと

ファイターズでは、数える事が出来ないくらい多くの事を学びました。その学んだことすべてが社会人として生活していくうえで重要なこと、豊かな人生を送るために必要なことだと感じています。

そんな中でも印象に残っている言葉等を紹介します。

「どんな男になるねん」

本のタイトルにもなっている言葉です。当時監督だった、鳥内さんに言われた言葉で、ファイターズ出身者であれば、誰もが知っていて、強烈なインパクトを受けた言葉だと思っています。

4年生の時に、鳥内さんからの言葉を言われた時は、「恐怖」を感じていました。しかし、この言葉は何をしていくにも重要な言葉で「明確なビジョンを持ち、『今』何をしなければならぬか、考えて行動すること」を表したものだと思っています。

それは、一般の社会人の中でも、出来ている人は少ないですが、仕事を進めていく上で、必要不可欠で重要なものです。

「明確なビジョンを持ち、そのために今

何をしないといけないのか考えて、行動する。」

この言葉を理解して、行動していくことが「ファイターズ」というチームで学生の時から常にできれば、人間としての道から外れることはなく、ファイターズの誇りをもった人間になると思います。

ファイターズを卒業して約20年経った今でも、この言葉を耳にすると背筋が伸びますし、仕事や人間関係がうまくいかず、悩んだとき等や、仕事を立て込んで心身ともに疲れ、弱音をはいてしまいうようになった時にもこの言葉を思い出すと、自然とエネルギーが湧いてきます。

それと同時に、初心を思い出し、自ずと物事が良い方向に向かっていきます。

「人間は今を生きる生き物」

この言葉は、当時オフエンスコーディネーターの小野宏さんが仰っていた言葉です。

どんなミスがあっても、どんなスーパードレーがあっても、目の前の1プレーに集中して、最高のパフォーマンスを発揮する。

人間には過去も未来もなく、今を生きる生き物、1秒前も過去である」と言うものでした。

アメフトは、一試合約60プレーと言われ、そのために何通りものプレーを1年間かけて準備しています。

そして、ゲーム。

ゲームでは、皆さんで存じの通り、イメージ通りに行かないことがほとんどです。自分一人のミスでプレーを潰してしまふこともたびたびあります。

しかし、次のプレーはすぐに始まり、常に高い集中力を維持し、自分の最高のプレーをし続けなければ、決してライバルに勝つことは出来ません。

社会人になり、仕事が上手いかわからない時



PROFILE

藏谷俊治(くらや・しゅんじ) / 関西大学第一高等学校でアメリカンフットボールを始める。2、3年時にクリスマスボウル(高校選手権決勝)連覇。FIGHTERSでは4年間OLの中心として活躍し、3年時には関学初のライスボウル制覇に貢献。2003年、松下電工株式会社(現パナソニック株式会社)に入社。3年間経理部に勤務の傍ら同社のフットボール部インパルスでも活躍。インパルスでは2年目、3年目に幹部を務め、2年目には日本一となる。2006年に大阪府警察入職。巡査を拝命し、現在に至る。現在の階級は警部補。



4年生の夏合宿、最終日の練習後に同期のメンバーと。(後列、中央が筆者)

持った4年生に対して何を求めるのか。自分はチームに対して何が出来るのか。常に考えて、常に求め、本音をぶつけ合うことで成り立っていたチームであったからこそ学ぶことが出来たのだと、社会人になって思います。

現役部員に伝えたいこと

今は、「この秋シーズンで優勝する、そのために今、何をすべきなのか」「何をしなければならぬのか」と考え、すべてにおいてフットボールを一番に考えた生活をしているのではないかと思います。

現役部員の方は、それでいいと思いますし、そうあるべきだと思います。



2002年1月。オフラインスラインの中心選手として関学のライスボウル初制覇に貢献した。



卒業後は松下電工(現パナソニック)インパルスでも活躍。

大学4年間で「何かひとつの事に夢中になり、真剣に取り組むこと」を行い、目標である「日本一」になってください。

そうすれば、その先、変わることのない「仲間」が出来て、「自分の中で『核』となる考え方」を得ることが出来ると思います。

もちろん、OBや監督、コーチ、スタッフ、そしてご家族の支えがあり「ファイターズ」という最高の環境でフットボールが出来ている「ことも忘れたいです」。

最後になりましたが、「コロナ禍で大変な世の中ではありますが、現役学生の皆さんの活躍、監督・コーチ、関係者、OBの皆さんの健康とご多幸を心より祈っております。